

献 辞

井上久子先生は1975年追手門学院大学経済学部にて講師として赴任され、その後助教授、教授とその教育・研究のキャリアを追手門学院大学一筋でこられました。ご担当は社会保障で、そのご専門から大阪市の医療審議会の委員もなさっております。また大学院では、大学院委員として研究科の運営にたずさわってこられました。

先生が2002年の『経済学部白書』に書いておられますように、先生が社会保障の本格的なご研究を始められた時期は、日本の社会保障が制度の上でようやくその骨格が整った時期でした。その時期に日本の社会保障は皆年金皆保険体制ができ、高度成長の追い風に乗って拡大を続けてきたのですが、高度成長が終わり、高齢化が著しくなった昨今では、日本の社会保障も経済社会の変化に合わせた改革を迫られるようになっていきます。

こういった日本の社会保障の歩みと歩調を合わせるように研究を進めてこられた先生は、数多くの共同研究という形でその成果を発表されています。研究課題として「福祉多元化社会における社会保障——年金、医療、介護——の在り方」を掲げておられる先生は、各国の社会保障の実態、国際比較研究、わが国における社会保障の在り方、さらに行政面への助言など非常に多方面にわたる研究を進めてこられました。

先生のゼミには、先生のお人柄を慕った学生が集まりました。その中から、かなりの数の卒業生が社会福祉の方面に進んでおります。研究者としての方向を目指した者もでるなど、先生の教育

上の成果は目覚しいものがあります。

今回ご家庭のご事情もあって若干早く身を退かれることになったのは残念ではありますが、私共はこのようなすばらしい先生に経済学部、および経済学研究科にご在籍いただいたことを誇りに思っております。今後もご健康に十分注意されて、ご活躍下さいますようお願いしております。

経済学部長

鈴木多加史